3.11 後の日本経済

アサヒ繊維工業株式会社
代表取締役社長　浅井　耕治

3.11 東日本大震災は、図らずも、菅首相のリーダーシップの無さを露呈する機会となってしまった。私は、3月 12 日から、ある団体主催の海外視察に出発して、海外で報道を見ていた。当時、CNN のトップニュースは、2010 年 12 月のチュニジアの事件に端を発して、エジプトなど他のアラブ諸国に拡がった民主化運動だったが、3.11 後は、ツナミとフクシマに取って代わっていった。入手できるニュースが少なかった事もあったが、日本の政府の対応は進んでいないように見えた。私は、菅首相が国家非常事態宣言を発布して、『全責任は自分が取るから、各省庁は、全力で事に当たれ。』と、何故、言わないのだろうかと思ったりしたものであった。

我々は、小さな組織ではあるが、我が社に一大事あらば、全社で事に当たるべく、組織のトップである者は先ずは組織をまとめる為の宣言を第一にすべきだと思うし、どの組織の長でもそう考え、そう実行していると思う。組織の長たる者、一大事の場合に組織を束ねる事ができなければ、組織として機能しないのは、歴史を見るまでも無く自明である。

日本の経済は、第二次世界大戦後の高度成長時代は 1975 年頃には終わり、その後、バブル、バブル崩壊を経て、今は、自由主義経済のプレーヤーも、旧欧米諸国、日本に加えて、台湾、韓国、中国等々のアジアの国々が、次々に参加してきて、さらに力も付けてきて、従来の日本のビジネスモデルを追従して、さらに各国の積極的な海外進出策が功を奏し、日本のシェアは着々と浸食されてしまった。

この状況があるにも関わらず、日本は、まだまだだ大丈夫とか、日本の木目細かなモノづくりは他のアジアでは真似ができないとか、工場は海外移転しても、開発を日本が握っていれば大丈夫とかの意見が未だに言われている。本当にそうだろうか、モノづくりでしか立国できない日本で、モノづくりの現場が無くなったら、どうなるのだろうか。

他のアジアの人々より日本人が優れているのだろうか？私には大いに疑問である。明治時代や第二次世界大戦後とは違うのだ、我々が、海外進出してアジアでモノづくりをしているのは、日本品質で、アジアで生産できる事を、自ら実証している訳なのだ。しかもハングリーさは、日本人よりもアジアの人々の方が完全に上回っている。

若い日本人の風潮は、勿体ないより面倒くさい、食欲も無く、アレルギーが出て食えるモノも限られる。

このような日本を取り巻く現在の経済環境下、日本政府として何をすべきか。日本の人件費は高いと言われているが、日本の国内での生活が幸福感あるものだろうか。生活の向上が体感できれば、向上心も沸くが、向上感が体感できなければ、気持も萎えてしまう。どうやって向上感を体感できるようにするか、これは、日本が、どの方向へ行くべきかの指針を政府が宣言して、実行して行く事ではないだろうか。

民間企業も、アジアのメーカーにブランドを売って生き残りを図る方法を取ったり、情けない状況が続いている。民間企業の経営者も、今の日本の閉塞感をどうにかしようと言う意気地のある創業者魂を持たず、かく言う私もそうだが、二代目、三代目の経営者やサラリーマン社長が大半で、政治家もそうだが身を賭してという気概が無い。先ずは我々が更なる危機感を持って経営に当たらねばと自戒しつつ、日本の進むべき道筋を模索したいものである。